

## 2024年 年頭所感

令和6年能登半島地震により被災された皆様に、心からお見舞い申し上げます。被災地の復旧のご支援をさせていただくために、弊社の従業員が全力を尽くすことはもとより、ビジネスパートナーの皆様と密に連携させていただく所存でございます。

2023年、日本を含む世界の住宅設備・建材業界は、高い金利を主たる要因とする大きな景気後退がありました。特に、欧州での需要減少は過去30年で最大のものとなり、厳しい事業環境となりました。しかし、欧州や米国の需要減少は一時的なもので、中長期的にはどちらの市場も経済活動が復調する見通しであり、弊社にとっての主要な成長市場として回復していくことが期待できます。

厳しい環境の中であっても、これまでと同様に、困難な状況は事業基盤を強化し、さらなるイノベーション創発の機会であるととらえており、事業のさらなる成長を目指して多くの施策に取り組み、実りの多い年であったと考えています。特に事業戦略と環境戦略の統合を進めるこことを本格的に開始し、世界の各地域において多くの商品をユーザーの皆さまにご提供することができました。

国内事業においては、インフレの進行により、建築コストが上昇し、特に新設住宅着工戸数の低迷が継続していますが、昨年より開始された窓の断熱リフォームに対する政府による補助金制度は、かねてより日本の住宅の高性能化に取り組んできた当社にとって、大きな後押しとなりました。既存の窓に対して簡単に施工し、断熱効果を高めることができる内窓「インプラス」の売上は例年を大きく上回ることとなりました。国内に約6,000万戸ある既存住宅の9割が現行の省エネ基準を満たしていないため、今後も既存住宅のエネルギー効率を高めるためのご提案をしていく予定です。

また、エンドユーザーの皆さまに窓を選定いただく際の新たな観点として、地域に最適な窓をご提案し、環境負荷を低減する窓シリーズの総称を『GREEN WINDOW』と定義して展開していくことを発表しました。すでに欧州を中心に、原材料調達、製造、流通、使用、廃棄といった製品のライフサイクル全体からCO<sub>2</sub>削減を考えていく潮流がありますが、日本においてもこの考え方を浸透させ、住宅からのCO<sub>2</sub>排出を削減するとともに、資源循環を促進することに取り組んでいきます。

脱炭素・循環型社会の実現に向けては、製錬の際に大量の電力を消費するアルミニ新地金の使用比率を下げ、使用後のアルミ材を有効活用する取り組みも進めてきました。昨年には、原材料としてリサイクルアルミニを100%使用する低炭素型アルミニ形材「PremiAL R100」を発売しました。この商品は、通常のアルミニ地金を使用するのに比べ、製造時のCO<sub>2</sub>排出量を97%も削減するなど気候変動の緩和にも大きく貢献するものです。昨今の建設業界では、製造プロセスにおいてもCO<sub>2</sub>排出量が少ない商材を採用することへの関心が高まっており、今後ますます「PremiAL R100」への需要が高まることが予想され、海外での販売も視野に入れて展開を強化しています。

ウォーターテクノロジー事業においても、環境負荷低減に向けた取り組みを進めています。一般的な住宅における消費エネルギーのうち、約6割を暖冷房と給湯が占めていますが、住宅の断熱性を高める窓やドアなどの商品と共に、キッチン用タッチレス水栓「ナビッシュ」を始めとした節水機能付きの水栓製品やシャワーヘッド等をご提案することによって省エネや節湯を実現しています。さらに、GROHEブランドでは、心地よさはそのままに、水を再利用できる新しいシャワーシステム「Everstream」を発表し、欧州での商品化を今年予定しています。この商品によって、髪や体を洗った後のお湯を回収し適切に浄化することで、水の再利用を可能とし、高い節水・節湯効果を実現できます。

生産拠点でも環境負荷低減に向けた施策を意欲的に進めています。事業で使用するエネルギー分野では、使用電力の100%を再生可能エネルギーにすることを目指す企業イニシアチブ「RE100」に参加し、再生可能エネルギーの活用を推進しています。ウォーターテクノロジー事業では大谷工場と尾道工場に、ハウジングテクノロジー事業では熊山工場に再生可能エネルギーの活用を推進しCO<sub>2</sub>排出量削減を実現するために、太陽光発電設備を導入しました。今後もベトナム工場、有明工場、名張工場、久居工場でも、オンサイト型PPAモデルを導入予定です。今後も環境に配慮した商品の提案、サプライチェーンにおける環境負荷低減への取り組みに注力していきます。

また、これまでのLIXILの価値提供の枠を超えて、潜在ニーズを掘り起こすイノベーションにも野心的

に取り組んでいます。ご好評いただいている、柔らかく温かい”絹泡”で新たな入浴体験を提供する泡シャワー「KINUAMI U」をベースに、医療や介護に特化した「KINUAMI Care」を開発しました。これは、高齢化する社会において、介助者・被介助者双方にとってより良いエクスペリエンスをご提供できる商品であると自負しています。また、株式会社KWORKSとコラボレーションし、家でもアウトドアでも「365日活用」できる移動型の空間「mio space」を開発し今年からの販売を予定しています。こういった実験的な取り組みによって、変化するニーズやライフスタイルにお応えできる商品をご提案します。

また、LIXILは引き続きデジタル技術を駆使したイノベーションにも取り組んでいます。2022年に開設したIoT実験住宅「みらいえらぼ」では、スマートホームシステム「Life Assist2」を中心に、他社機器を含めたオープンイノベーションを推進しています。非住宅分野でも、AIがトイレ清掃業務の効率化を支援するIoTサービス「LIXIL Toilet Cloud」に、トイレのつまり検知や一括制御ができる新機能を搭載した衛生機器を追加しました。この機器は、2023年3月に開業した西日本旅客鉄道株式会社の大阪駅（うめきたエリア）に初導入され、今後も導入事例の増加を見込んでいます。

デザインの分野では、住環境や環境負荷を考慮したLIXIL商品のデザイン性が評価され、「2023年度グッドデザイン賞」において17点のアワードを受賞しました。国際的デザイン賞である「Red Dot Award: Product Design 2023」や「iF DESIGN AWARD 2023」においてもアワードを受賞しています。これも、LIXILが世界に設置している8つの主要なデザインスタジオを通じて、世界市場における多様なニーズやトレンドを的確に汲み取り、最新のテクノロジーによって日々の暮らしの課題を解決してきた証左であると自負しています。

以上のように、LIXILは戦略に沿って多くの施策を展開していますが、その礎となる企業文化の醸成にも引き続き注力しています。昨今の変化の厳しいビジネスや競合環境に対応できるように、従業員が、起業家精神に溢れ、アジャイルに働き、多様な人材が多様な能力を存分に生かすことができる環境を構築することを目指しています。LIXILでの経験が豊かな人材、LIXIL以外での経験が豊富な人材、女性や若い世代、障がいのある人など、多様な人材が活躍できる組織への変革を今後も継続していきます。

私たちを取り巻く環境は劇的な変化を遂げており、今後は変化のスピードがさらに増していくことが予想されます。厳しく見通しの立てづらい状況にあっても、新たな価値をお客さまへご提供し、企業としての持続的な成長を達成するために、企業文化の変革を進め、イノベーションを創発し、事業戦略と環境戦略の融合を加速させていくことに今後も注力していきます。

LIXILは、今後も私たちのパーザス（存在意義）である「世界中の誰もが願う、豊かで快適な住まいの実現」を目指して、経営陣と従業員が一丸となって取り組んでいきます。本年も皆さまの一層のご指導、ご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

株式会社LIXIL 取締役 代表執行役社長 兼 CEO  
瀬戸 欣哉

#### About LIXIL

LIXILは、世界中の誰もが願う豊かで快適な住まいを実現するために、日々の暮らしの課題を解決する先進的なトイレ、お風呂、キッチンなどの水まわり製品と窓、ドア、インテリア、エクステリアなどの建材製品を開発、提供しています。ものづくりの伝統を礎に、INAX、GROHE、American Standard、TOSTEMをはじめとする数々の製品ブランドを通して、世界をリードする技術やイノベーションで、人びとのより良い暮らしに貢献しています。現在約55,000人の従業員を擁し、世界150カ国以上で事業を展開するLIXILは、生活者の視点に立った製品を提供することで、毎日世界で10億人以上の人びとの暮らしを支えています。

株式会社LIXIL（証券コード：5938）は、2023年3月期に1兆4,960億円の連結売上高を計上しています。

LIXILグローバルサイト：<https://www.lixil.com/jp/>

LIXIL Facebook（グローバル向け）：<https://ja-jp.facebook.com/lixilglobal/>

LIXIL Facebook（日本国内向け）：<https://www.facebook.com/lixilcorporation>